

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200760), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホーム すぎの子の家), 所在地 (札幌市東区東苗穂3錠1丁目10-2), 自己評価作成日 (平成27年2月3日), 評価結果市町村受理日 (平成27年3月5日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化とともに認知症の重度化する中で、個性を大切にし、より入居者の思いに沿ったケアの提供を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0170200760-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年2月16日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)ホームの環境;住宅街にあって、1階を保育所、2・3階がホーム。制度開設時のコンパクトな施設で、見晴らしも良く、明るく、機能的な介護設備・整備がされている。
2)職員の態度・姿勢;よく観察し、聴き、丁寧に、やさしく、適切な利用者対応に努めている。全国的な研究会に事例発表し、日常の実践成果を確認し評価を得ている。
3)家族・利用者の満足;看取り等の実践成果を共有し、利用者とのゆとりある係りに努め、聴き、理解し、伝える対応に家族等の満足を得ている。家族アンケート等の評価も高い。
4)運営推進会議の開催状況;家族の参加、地域代表や包括Cなどの参加を得て運営状況を説明し、理解を得て、意見等を運営に反映している。
5)地域との連携;防災の協議や地域の行事等の分担など地域資源との連携を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり 一緒に 楽しく 豊かに」を理念に、よりよいケアの提供を目指している。	「ゆっくり・一緒に・楽しく・豊かに」を理念に、「寄り添い・一貫性ある専門性のケアを、家族・地域・職員みんなで、なじみのある環境で、楽しい活動を共にする」を行動指針として実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動に参加し、近隣の除雪ボランティアの申し出を行い、地域の一員としての活動を大切にしている。	地域の行事や活動に参加し、除雪などの役割を申し出るなど地域の一員としての協力と連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療・介護・福祉に関する勉強会を法人主催で行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況、ホームでの取り組み、事故を報告、共有できるようにしている。	会議は定例に開催し、家族・地域代表・包括支援C等の参加を求め、運営上の利用者・職員の動向など詳細を説明して、参加者の意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事例発表の機会を利用しながら報告し、取り組んでいる。	定例の運営報告とともに、ホーム連絡協会の活動事例報告などホームの実践成果を共有する等、関係機関との連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の尊厳についてカンファレンスで話し合いを行い、常に拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体拘束の意味の多様性や態様の理解を職員相互で学習し、利用者本位な対応に活かし、利用者への虐待や人権を損なうことのないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気なく発した言葉の重みを常に注意し、虐待へと繋がらないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる入居者はいないが、研修等に参加する事で知識を身につけて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には時間をかけ説明をし、理解が得られる様に努めている。待機をかける場合も見学してもらい、ホームの概要や費用について説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や来訪時に意見を頂いた事は、都度検討している。	運営推進会議には実践実例等を家族を含む話の場とするとともに、包括C等の専門機関や地域の機関に参加を求め、認知症者の運営の実際を話して役割等の理解を進めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや申し送り、面談等の機会を利用し、行っている。	月例のカンファレンス会議等では業務上の個別的な課題や職員個々の発想等を事前に集約し、効果・効率的に課題解決への協議を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価を行い、努力や実績を把握している。職員各々が目標を設定し、達成出来る様に共に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での勉強会や法人内外の研修に参加するように情報を提供し呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での合同研修会などで他事業所の職員との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には了解を得たうえで可能な限りの情報収集を行い、CPATを使用し、アセスメントを行っている。 また本人、家族との面談も必ず行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談では、十分に時間を取り、不安やニーズについての情報収集し、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CPATを使用したアセスメントにより、本人のニーズ、ケアの方向性を見極め、書記プランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活者として、アクティビティや家事活動と一緒にいる事で、共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時は、状況報告を行っている。 また家族からの要望、意見を聞き、入居者のより良い生活のために共に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者には継続しての来訪をお願いしている。 外出可能な方には、馴染みの場所への外出もお願いし、支援している。	利用者個々の生活上の思いを含む「呟き」「動作」等を記録し、心情把握に努め、家族の協力の下に馴染みある場所への外出などの対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑したり、助け合いながら家事活動を行う時間を大切に、良い関係を継続していけるように見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、相談にのったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活を送る事が出来る様に思いや希望を大切にしている。困難な場合も家族と相談し、その人らしい生活を目指して検討している。	認知症の行動・心理症状(BPSD)をリファレンスブックにして職員が共有し、その要因と基本対応の研鑽に努め、課題解決にあたり家族の協力を得ている。	職員の創意による介護事例の記録の取りまとめはBPSD理解の普遍化に益することが大きく、今後、広く活用されるように期待いたします。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし、趣味等についての情報を収集し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常時様子観察を行い、申し送りやカンファレンス等で情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア担当者が、申し送りやカンファレンスで共有した情報を分析し、計画作成担当者と協力しながらケアプランを更新している。	ケア担当者を中心にカンファレンス会議等を経て観察過程を含め情報を分析し、介護計画作成者と共に計画作成や変更を家族・利用者の理解を得て実施。時に、プロジェクトチームで総合的な見直しや点検も実施している。	必要に応じた総合的なケアの見直しプロジェクトチームの試みは、組織全体の活性化や質実の向上への刺激となっているとのことで、今後のさらなる成果に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	つぶやき、日々の様子、重要な事柄は、記録に残し、ケアの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の車を使用し、外出したり、他施設の行事に参加したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩等での日々のあいさつや町内の方に協力して頂いての避難訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療時は、必ずスタッフが付き添い、日々の様子や特変事項を伝えている。医療機関を受診する際も必ずスタッフ、家族が同行し、手紙などで状況を伝えている。	家族との合意を得て、担当者付き添いで月2回の訪問診療を受診し、日常の様子や変化の状況などを伝えている。個々の利用機関への同行(家族・職員)の結果を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問診療の看護師に相談、報告しながら適切な受診や看護を受けることができる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は 介護添書や口頭で情報を伝えている。また入院中は、様子を見に行き、状態の把握に努めている。退院前は、カンファレンスを行い、状況に合わせたプランを作成し、受け入れ準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が悪化した場合は、早い段階で医療職、家族を交えて面談を行い、終末期に向けての話し合いをし、取り組んでいる。	契約段階で重度化や看取り等の対応を文書化している。個々の心身の状況に応じて、話し合いや具体的対応を協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応や感染症対策等についての勉強会を適時行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、町内の方にも参加して頂き、また消防署からの指導も受け、協力体制作りをしている。	定例の想定訓練を地域の参加協力を得て実施しており、消防当局等のハザードマップなど災害情報を収集して対応に当たっている。なお、備蓄等についても可能な対応に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ、対応の仕方は、本人の気持ちを配慮するように努めている。	理念や行動指針に準じた職員の対応はきめ細かに、心身の状況を日常的な記録のうちに把握して、利用者の誇りや想いに留意し、配慮された対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を大切にするために、常に意向を確認し、支援を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、入床、食事等の時間をできるだけ一人ひとりのペースに合わせ、個性を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と協力して整容に対する支援を行っている。 希望により訪問美容を利用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや味噌汁作り、盛り付け等できる作業と一緒にしている。 食後の片付けも共に行っている。	利用者の心身の状況や能力・興味に合わせて食事作りの手伝いや片付けなど、食事の楽しみを共有するよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立を心掛けている。 食が進まない入居者にはレトルトも含め、食事形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、うがいを行っている。 歯ブラシを使用できない入居者は、スポンジブラシを使い拭きとりを行っている。 義歯は夜間浸け置き洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせ定時にトイレ誘導を行い、トイレのサインを見逃す事がないように対応している。	定時的な誘導や心身・摂食状況などを把握して、個々のサインを見逃さずに対応に努めトイレ排泄や自立への支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に冷たい牛乳を提供したり、食物繊維を多く含む食材を提供している。 また日中に体操を行う等適度の運動を積極的に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	睡眠状況、食欲、バイタル等を考慮し入浴を勧めている。 拒否時は、時間を置いたり、日を改めてりしている。 週2回の入浴を目標としている。	個々に応じた入浴対応は難しく、心身の状況(バイタル・睡眠・活動等)を把握して、入浴気分や雰囲気などを確かめ弾力的な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠気の強い時は、無理せずに休んで頂いているが、昼夜逆転には注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康管理ファイルで各入居者の薬内容が把握できるようになっている。 薬の変更は、申し送りや連絡ノートで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた活動や季節の行事で日々の暮らしに楽しみや活気が持てる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪の無い時期は天候を見て近隣への散歩を行っている。そのほか花見、外食等職員・家族とともに外出する機会を設けている。銭湯へ行く等個人の希望も取り入れて動いている。	季節に応じた変化を楽しめるよう、時に家族の協力を得て共に外出やドライブなどの機会を設け、変化のある、閉じこもらない生活感を味わえるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者は金銭管理が困難であるが、可能な入居者については、家族の協力のもと、自己管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけたり、取り次いだりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった装飾などを行っているが、華美にならないように落ち着いた空間の提供を意識している。	居間空間は中庭に面して明るく開放感があり、温・湿度管理や採光対応が施され、季節に応じた飾りや利用者の作品展示があり、なじみある居場所づくりに工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で気の合う人と過ごすことはできるが、一人で過ごせる場所はない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、馴染みの物を持ちこみ、なるべく自宅に近い雰囲気です生活出来る様に心掛けている。	利用者の個々の好みや家族の配慮を大切にして、家具調度品や飾り付けなど、その人らしい居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等には手すりが設置されている。不十分な場所は職員の介助で補っている。また居室の名札やトイレの表示をわかりやすく掲示している。		